

参考様式第30及び参考様式第33の別添3

市街地復興効果促進事業の概要を示す書類

事業番号	★ D 15 - 1 - 10
要綱上の事業名称	復興地域づくり加速化事業
細要素事業名	津波伝承施設(仮称)整備事業
全体事業費	150,000千円(120,000千円)
<p><b>【事業概要、基幹事業との関連性】</b>  東日本大震災での記憶と経験の伝承を行うため、鶴住居駅前地区に「津波伝承施設(仮称)」を整備する。  「津波伝承施設(仮称)」は、鶴住居での出来事(小中学生の避難行動、鶴住居防災センターでの多数の犠牲)を物語る展示の公開や、語り部による津波体験とその教訓の伝承、防災意識啓発のための体験教育プログラムの提供および追悼行事を実施し、震災伝承の中心を担う。これにより、震災の風化を防ぐとともに、津波の伝承を中心とした地域のつながりをつくりだし、地域づくりの一助とする。</p> <p><b>■【事業概要】</b>  鶴住居小学校・釜石東中学校の児童・生徒がとった避難行動を発災から時系列で示すパネル・検証記録等の展示、鶴住居地区防災センターでの犠牲がなぜ起きたかに焦点を当てた資料・検証結果の展示、ならびにそれらに関する遺物の展示を行う。  また、展示の基礎資料としてこれまで行ってきた「震災復興の軌跡保存事業」等で集めた証言・映像のアーカイブを活用する。  なお、施設整備を行う平成29年度以降においても、最終的な全体事業費が、労務資材費単価増等があったとしても150,000千円を超えることとならないよう、実施設計を行うこととする。</p> <p>1 施設概要  ①施設名称  津波伝承施設(仮称)  ②整備箇所  釜石市鶴住居町第16地割地内  ③構造  木造平屋建  ④床面積  約360㎡  なお、市平成28年度策定予定の「釜石市公共施設等総合管理計画」においては公共施設の全体面積を削減する方針であるため、本件伝承施設の整備に合わせて、他の床面積を削減することとする。  また、当該施設の維持管理費は年間6,000千円を見込んでいるが、これは「釜石市公共施設等総合管理計画」に基づいて、来年度以降の他の施設の公維持管理コストの縮減で捻出することとする。</p> <p>2 業務内容  ①設計費  ・基本設計(今回要望額) 9,757千円(建物及び内装合計額)  ・実施設計 20,673千円(同上)  ②建設工事費 119,570千円  ※ただし、実施設計により、工事費は変更の予定あり。</p> <p>◇全体事業費 150,000千円</p> <p>3 事業実施期間  ・基本設計 平成28年12月19日～平成29年3月31日  ・実施設計 平成29年4月1日～平成29年7月31日  ・施設整備 平成29年8月1日～平成30年12月31日</p>	

※ この様式は、原則として、参考様式第20及び参考様式第23の別添2に記載した細要素事業ごとに作成してください。

※ 「全体事業費」は、細要素事業(当該細要素事業と一体不可分な事業を含む。)について、全体事業期間を通じての全ての事業費を記載して下さい。

※ 細要素事業の概要を示す図面を添付して下さい。